

R7年大豆栽培農事メモ(第2号)

令和7年6月26日
白山石川営農推進協議会
石川県農業共済組合
松任市農業協同組合

「株元までしっかりと土を寄せる」的確な培土を！！

I 現在の生育経過

- 管内の播種は、6月上旬から始まり、作業は順調に進みました。圃場は乾燥気味ですが
- 生育の早いほ場では本葉が展開してきており、中耕・培土の実施時期を迎えています。

II 中耕・培土の実施

＜実施の目的＞

- ①排水性の改善 ②根と根粒菌の発育促進
- ③雑草発生抑制 ④倒伏防止

＜実施時期の目安＞

- 下記を参考に適期に中耕・培土を行いましょう。
- 雑草の発生が目立つ圃場は天候を考慮し早めに培土を実施して下さい。

1回目中耕・培土 : 本葉2～3枚頃に子葉が埋まる程度 ……播種後 20～25 日頃

2回目中耕・培土 : 本葉5～6枚頃に初生葉が埋まる程度 ……播種後 30～35 日頃

1回目(播種後 20～25 日頃)



7～10日後

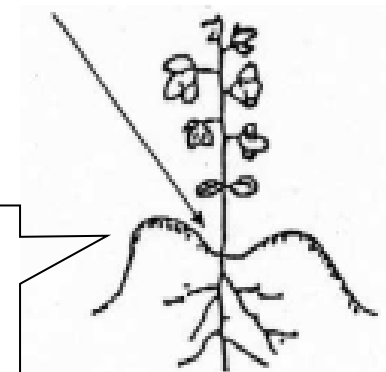
2回目



＜実施時の注意点＞

- 培土作業は、開花期前の7月中旬頃までに終わらしましょう。**
→開花期以降の培土は根を傷め、着莢数が少なくなる恐れがあります。
- 土の上がりを良くするため、できるだけほ場が乾いている時に行い、**株元までしっかりと覆いましょう。**

株元に土がかからないと...



- 株元に水たまりができる（湿害を受けやすくなる）
- 雑草が繁る（生育抑制、汚損粒発生の原因に）
- 株元に土がないので新根が伸びない（乾燥害を受けやすくなる）
- 倒伏しやすい（コンバイン収穫が困難に）

Ⅲ 追肥の実施（大豆一発肥料を用いた場合を除く）

適切な生育量確保、子実肥大の促進のため、開花期までに追肥を施用しましょう。

資材名	施用量	施用時期
硫 安	10kg／10a	2回目の培土時または開花期前
N K 1 7 号	12kg／10a	

Ⅳ 雑草防除

大豆生育期の雑草対策は、中耕・培土の徹底が基本です。

除草剤を使用する場合、圃場に発生している雑草の種類（イネ科雑草・広葉雑草）に応じて適切な薬剤を選定し、遅れずに散布しましょう。

狭畦栽培は、下記の太枠の薬剤を参考に播種後20日を目安に除草剤散布する。
ただし、土壌処理効果がないので、雑草と大豆の大きさを確認し適期散布に努める。

除草剤名	適用雑草名	使用時期	10a 使用量 (希釈水量)	使用方法	使用回数
大豆バサグラン液剤	一年生雑草 (イネ科を除く)	大豆の2葉期～開花期前 (雑草生育初期～6葉期) 〔但し収穫45日前まで〕	100～150ml (100L)	雑草 茎葉散布 又は 全面散布	1回
ポルトフロアブル	一年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く)	雑草生育期 イネ科雑草3～10葉期 〔但し収穫30日前まで〕	200～300ml (100L)		2回
ナブ乳剤	一年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く)	雑草生育期 イネ科雑草3～5葉期 〔但し収穫30日前まで〕	150～200ml (50～150L)		1回
		雑草生育期 イネ科雑草6～8葉期 〔但し収穫30日前まで〕	200ml (50～100L)		
		雑草生育期 イネ科雑草9～10葉期 〔但し収穫30日前まで〕	250～300ml (100～150L)		
バスタ液剤	一年生雑草	収穫28日前まで 雑草生育期 畦間処理	300～500ml (100～150L)	雑草 茎葉散布	合わせて 3回 以内
ザクサ液剤	一年生雑草	収穫28日前まで 雑草生育期 畦間処理			
ブリグロックスL	一年生雑草	畦間処理 雑草生育期 (雑草草丈30cm以下) 但し収穫3日前まで	600～1000ml (100～150L)		4回 以内
ラウンドアップマックスロード	一年生雑草	収穫前日まで 雑草生育期 畦間処理	200～500ml (50～100L)		2回 以内

※ナブ乳剤と大豆バサグラン液剤を混用すると効果が低減します。

※【非選択性】の薬剤は、大豆にかかると枯れてしまうため、畦間処理の際は注意しましょう。

※バスタ液剤、ブリグロックスL、ラウンドアップマックスロードは、畦畔散布も使用回数に含みます。

※除草剤を使用するときは、使用基準を守り、風向きに注意するなど周辺に薬剤が飛散しないように十分に注意しましょう。

○畦畔に除草剤を使用する際の留意点

- ・生育期間中の「だいでず」に登録のない除草剤は**使用できない**(例: **2, 4-D、サンフーロン液剤**)
- ・大豆田の間にある畦畔 → 「だいでず」に登録のある除草剤を使用
- ・大豆田と水田の間にある畦畔 → 「だいでず」と「水田畦畔」両方に登録のある除草剤を使用